

*前号(4月23日発行)からひと月以上たってしまいました。気が付くともう梅雨の気配です。皆様いかがおすごでしょうか。

/// I N D E X //

- ・ISO情報……………ISO14068(カーボンニュートラリティ)
IWA (Net Zero) を作る?
削減貢献量のISOを作る?
- ・LCAFからお知らせ…初級検定試験の日程発表
報告:初級研修と中級研修を実施しました。
- ・編集後記……………さくらんぼとシジュウカラ。

■■ ISO情報 ISO14068(カーボンニュートラリティ) ■■ ——

ISO14068(カーボンニュートラリティ)のWGが5月18日(月)~20日(金)にパリで行われました。私もパリに行って参加したかったのですが、METIの渡航許可が出ませんでした。現地時間9:00~18:00の会議に、日本時間16:00~25:00にオンラインで参加するのは、もう嫌だと思いました。

3月に回付されたワーキングドラフトに約1,900件のコメントが各国から寄せられ、全員でその処理を行っているという判断で、2つのグループに分けてそれぞれが担当する章を決め、コメントが妥当なものかどうかを議論し、採用が決まったコメントに沿ってドラフトを修正しました。

「カーボンニュートラリティ」の定義がまだはっきりしません。前回の議論で、「排出量(Emission)=除去量(Removal)+オフセット(カーボンクレジットの購入)」と決まっていたはずなのですが、カーボンニュートラリティに(カーボンクレジットの購入)を認めたくない人達がまだいて、議論が繰り返されます。

二つのグループが章を分けて議論しているので、全体のすり合わせができていません。6月20日から29日の間の5日間(4時間/日)で、ワーキングドラフトからCD(コミッテイドラフト)に格上げして、各国に回付してコメントを求めるといっていますが、ほんとうにCDが出来上がるか非常に不安です。

ちなみに、ISOの規格作成は始まってから3年でできない時には廃案になるルールなのですが、昨夜(5月25日)に行われたTC207/SC7の総会で9か月延長が認められました。廃案になる危機がいったんは回避されたということです。

■■ ISO情報 IWA (Net Zero) を作る? ■■ ——

上述のようにISO14068(カーボンニュートラリティ)の議論がちっとも進まない状況のなかで、イギリスからIWA42(Net Zero)を発行する提案が出されました。

IWAというのは、国際ワークショップ協定(International Workshop Agreement: IWA)と言って、ISO専門委員会の議論によらずに、関心がある人たちが集まってワークショップ開き、そこでの合意事項を文書にするものです。規格にする前の合意文書の位置づけです。

現在TC207/SC5(LCA)とTC323(サーキュラーエコノミー)が合同で開発を進めているISO59014(2次材料)も、IWA19という二次金属に関する合意文書があって、それをISOにする作業が始められました。

今度の提案はIWA42(Net Zero)です。上述したISO14068(カーボンニュートラリティ)ではNet Zeroという言葉は使わないことが決まっています。7月13日にオンラインでワークショップが行われることが決まっています。どんな人が集まって、どのような合意文書が作成されるのか、、、皆目わかりません。

昨夜(5月25日)に行われたTC207/SC7の総会では、SC7として「ISOの規格と整合するように作成されることを求める」ことが表明され、多くのISOの専門家がワークショップに参加するように勧められました。

■■ ISO情報 削減貢献量のISOを作る? ■■ ——

以上の2つのISO情報でも触れましたが、昨夜(5月25日)にTC207/SC7の総会が行われました。ISO/TR14069 (ISO14064-1のTR:技術報告)をTS(技術仕様書)に書き換える作業をしているフランスの代表(Romain Poivet氏)から「Avoided Emission(削減貢献量)」の算定方法の規格を作るという発言があり、SC7で削減貢献量の取り扱いを議論するために10月のSC7の総会でワークショップを開催することになりました。Romainさんは、コロナ前2020年1月の私の最後の海外出張(パリ)で、今後の削減貢献量の進め方を相談した相手です。その時には、次回は7月のオリンピック前に、日本のフランス大使館で打ち合わせるようになっていたのですが、それもコロナで流れてしまいました。さあ、もう一度「削減貢献量」の議論がISOで始まるのでしょうか。IEC「International Electrotechnical Commission(国際電気標準会議)」ではすでに削減貢献量算定の規格を作る作業が昨年12月に始まっています。

■■ LCAFからのお知らせ ■■

- 「LCA初級検定試験」を2022年7月23日(土)にオンラインで行います。皆さんの実力を試してみませんか。過去の問題と解説は<<https://www.lcaf.or.jp/seminar-2.html>>に公開されています。参考にしてください。もうすぐ受験申し込みを開始します。
- LCAの初級研修(4月27日と28日午前)と中級研修(5月25日と26日午前)を行いました。初級研修ではLCAの考え方の基礎と計算方法を説明しました。中級研修では、みなさんと一緒に「LCAの実施方法を考える」ようにしました。

■■ 編集後記 ■■

5月の連休はどこも大混雑だったようです。私は、自宅でLCAの教科書「演習で学ぶLCA」を書き換える作業をしていて、どこにも行けませんでした。それで、さくらんぼの収穫も手抜きだったので、鳥さんにほとんど全部を食べられてしまいました。でも、そのおかげでしょうか、柘植の木にかけておいた巣箱にシジュウカラが入ってくれました。かけてから2年間空き家だったので、とてもうれしいです。

この号では、最新のISO情報として、ISO14068(カーボンニュートラルリティ)の迷走ぶりと、7月のIWA42(Net Zero)提案のワークショップと、10月のSC7で削減貢献量のワークショップが行われることを書きました。どれも脱炭素に関係しているのですが、ISO/TC207/SC7(GHG)がいかに混沌としているか、整理しきれていない状況がわかると思います。

欧州では、「エコデザイン指令」が「エコデザイン規則案」に代わり、「デジタルパスポート」が導入され、、、とどこまでは決まったようですが、今後LCAが必須になる??? という話もあるようです。ISOのLCA関係だけでも把握しきれないのに、、、勉強することが多すぎてたいへんです。

チューリップとムスカリの球根は膨り上げました。そろそろフリージアの球根を掘って、来年に備えます。桃も膨らんできました。これは鳥さんに全部を食べられないようにしなければなりません。鳥さんと言えば、あれだけ鳴いていたのに、昨日から姿が見えません。気が付かないうちに巣立ったのでしょうか? もう少ししたら巣箱の掃除をしようと思います。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本LCA推進機構
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)
(エルカフと呼んで(読んで)ください)
〒71-0014 東京都豊島区池袋2-36-1
インフィニティ池袋8F52
電子メール: lcaf-contact@lcaf.or.jp
URL: <https://lcaf.or.jp/>